

## 講演会 「島本町の豊かな文化財」

平成 30 年 4 月 14 日（土）  
島本町文化財保護審議会会長  
吉原 忠雄 氏



「島本町の豊かな文化財」というタイトルをつけさせて頂きました。狭い地域ですが、町外に流出した文化財や未指定の文化財も含めると 41 点もあります。水無瀬離宮があったということで国宝が 2 つもあり質的にも量的にも豊かですので、島本町内の文化財を知って頂きたいと思います。

後鳥羽天皇と水無瀬離宮関係の文化財は登録文化財を含めて 15 件あり町指定の水無瀬駒も含めると 16 件です。後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮は別荘として使われていたのですが、1216 年に水害で流失し翌年に場所を移して再建しています。大変権力のあった後鳥羽上皇ですが、1221 年承久の乱により隠岐に流されました。その関係の絵画として国宝の「紙本著色後鳥羽天皇像」があります。京都神護寺の伝源頼朝像を描いたといわれる藤原隆信の息子の信実の作とされています。

それから関連の書跡等として国宝の「後鳥羽天皇宸翰御手印置文」は、亡くなられるまで天皇の側で身の廻りの世話をしていた水無瀬信成、親成親子に自分の為の御影堂を建てるようにという遺言です。天皇自ら手形を押してあります。重文の「後鳥羽院御置文案文」は、嘉禎 3（1237）年、後鳥羽上皇が自分を弔うことを希望して水無瀬信成に宛てて出したものだと言われています。「後鳥羽院宸翰御消息」と「後村上天皇宸翰御願文」も重文で、重文 3 件と国宝 2 件のすべての国指定品は京都国立博物館へ寄託しています。

次は、重要美術品です。「後鳥羽天皇御四百回忌御法楽御短冊（後水尾天皇宸翰以下二十葉）」です。これは寛永 15（1638）年のもので、和歌を詠んだ短冊をアルバム状にしたものです。「後水尾天皇宸翰御懷紙」は、後鳥羽天皇の「見渡せば山もとかすむ水無瀬川、夕は秋と何思ひけん」という和歌を江戸初期の後水尾天皇が写したものです。「御歴代宸翰御法楽御短冊（後西天皇宸翰以下二十五葉）」は、法楽という神仏の前で詠んだ和歌を短冊にして奉納したものです。

次は建造物です。重文は 2 つで「水無瀬神宮客殿」は、桁行 11.8m、梁間 10.9m、という大変立派なものです。慶長 5（1600）年に後水尾天皇から下賜されたのではないかとされています。

「水無瀬神宮茶室」は、こけら葺で、桁行 7.6m、梁間 5.2m の平屋の寄棟造になっています。格天井で江戸時代のものです。以下、水無瀬神宮の登録文化財です。「水無瀬神宮本殿」は木造の平屋で銅板葺、建築面積 89 m<sup>2</sup>、寛永年間に御所の建物を移築したものです。「水無瀬神宮拝殿及び弊殿」は平屋で銅板葺、建築面積が 149 m<sup>2</sup>で、昭和 4（1929）年に建てられました。「水無瀬神宮神庫」は大正のもので、土蔵造、2 階建て、瓦葺き、建築面積 24 m<sup>2</sup>の小さなものです。「水無瀬神宮手水舎」は屋根が大変立派で、木造、瓦葺、建築面積 5.5 m<sup>2</sup>、手水鉢付、大正のものです。「水無瀬神宮神門及び築地塀」は、木造、間口 2.8m、築地塀は瓦葺で総延長 5 m。北方に潜戸が付いています。江戸前期のもので、離宮の跡地にふさわしい格式を持っていると評価されているようです。

その他の国指定・登録文化財です。史跡「桜井駅跡（楠正成伝説地）」は、湊川へ出陣する楠木正成が、同行を願う正行をいさめて帰したと言われている所で、国の史跡で「島本町立歴史文化資



料館（旧麗天館）」は、桁行 11 間で約 25m、梁間 15m、入母屋造、棧瓦葺で裳階付きです。「若山神社本殿」は、ご祭神は素盞鳴尊の牛頭天王を祀っておられ、建物自体は江戸のものです。

次に大阪府指定文化財を紹介します。建造物では「関大明神社本殿」、慶長 10（1605）年から文化 6（1809）年まで度々修理を行い、その棟札が 12 枚残っており、大変珍しいです。有形民俗文化財では、「若山神社『東大寺村おかげ踊図絵馬』」があります。江戸のものです。また、町内の天然記念物として、「大沢のすぎ」、「尺代のやまもも」、「若山神社のツブラジイ林」があります。

次は島本町指定文化財を紹介します。全国的に有名な歴史資料の「水無瀬駒」は安土桃山に水無瀬兼成が作りました。駒は後陽成天皇や足利義昭、豊臣秀次、徳川家康などに納めたようです。納め先を書いた「将基馬日記」と「象戯圖」も関連資料として町の指定文化財第 1 号になりました。

第 2 号は彫刻の「神像（伝 聖徳太子七歳像）」です。一木造りで、10 世紀の初めの頃のものです。第 3 号は、桜井にある宝城庵という禅宗のお寺の「薬師如来立像」です。像高が 96.5cm、檜の一木造りで古い構造しており、彩色仕上げで典型的な平安後期のスタイルです。第 4 号は、山崎の「勝幡寺 薬師如来立像」です。基本は平安後期スタイルですけど衣のきざみかたが固い感じになっているところから鎌倉に入るとみられます。次は、「勝幡寺 元三大師みくじ関係資料一式」です。おみくじは天台宗の中興の祖といわれている良源（元三大師）が始めたといわれています。このおみくじの版本とみくじ竹、みくじ箱、札を納めるみくじ簞笥がほぼ一式揃った大変貴重なもので、町の有形民俗文化財第 1 号に指定されました。それから考古資料として「須恵器 大甕」があります。ほぼ完形で大変珍しいものです。桂川と宇治川の合流地点に近い所で見つけられました。山崎辺りに港があり、こういう大きなものを船で運んだ証拠になることを示す資料です。次は有形民俗文化財で「若山神社 絵馬」4 面。狩野派系統の絵です。作者もいつ描かれたかもわかっています。

次に未指定文化財です。「後鳥羽天皇画像（法体）」水無瀬神宮にありまして、これは私も写真でしか知りません。次の「愛染明王坐像」は、鎌倉のものです。後鳥羽上皇が念持仏にして持っておられたものだと思います。次に古文書として、「水無瀬神宮文書」があります。これは中世近世合わせてある程度数があり有力な指定候補となっています。町内の旧家はたくさんの古文書をお持ちです。将来的には指定になっていくだろうと思います。そして、「水無瀬離宮関係遺跡」や「遺跡出土品」があります。彫刻では地蔵院の「地蔵菩薩立像」があります。像高 264 cm の大きなお地蔵さんです。鎌倉中期頃のもので寄木造りです。これも間違いなく指定になるものです。

それから、町内から出てしまったのですが優秀な仏像があります。廃寺となった西観音寺（現椎尾神社）の「閻魔王坐像」、「五道太神」、「太山府君」、「司命」、「司録」です。鎌倉前期のもので、現在は大山崎町の宝積寺にあり、重文になっています。もうひとつは、廃寺になった釈恩寺の本尊の「十一面観音像」です。10 世紀後半ごろのもので、今は高槻市の霊松寺に移ってしまいました。

これで全部を紹介しました。終わりに、大阪市内に国宝が 35 件、大部分がコレクションです。大阪府内で国宝が 60 件あります。摂津国では、四天王寺に 6 つ、箕面市に 1 つ、高槻市に 1 つあります。それから茨木市の法人が刀を 2 つ持っています。ですから、島本町内にゆかりの国宝が 2 つあるということは、これは大変意義があることだと思います。まだまだ指定になるようなものがあるんだということも理解して頂きたいと思います。量的にも質的にも島本町は文化財の豊かな所です。ですからもともと住んでおられた方も、新しくこちらに越してこられた方も是非本物をたくさん見て頂いて楽しんで頂ければというふうに思います。ご静聴ありがとうございました。